

9月4日(火)

ちゃんと聞いて

聖書朗読 出エジプト記 18:13~27

愚か者は自分の道を正しいと思う。しかし知恵のある者は忠告を聞き入れる。

箴言 12:15

何をすべきか、何をすべきではないかを教えてくれる人を、みんな必要としています。イテロはモーセにとってまさしくそのような人でした。モーセは、イスラエル人の中で起こるあらゆる種類の出来事についての苦情を一日中聞いて、争いに決着をつけようとしていました。そして、そのことにモーセは疲れ果てていました。それ以上に、イスラエル人の指導者という神様がモーセに託されたもっと重要な任務を果たすためのモーセの能力によく影響を及ぼしていました。

モーセの意図するところはよかったです、結果はよくありませんでした。モーセは疲れ果て、人々もまた自分の苦情を聞いてもらう順番を待つことに疲れ、そしてほかの重要な仕事が後回しにされていました。イテロの助言はわかりやすいものでした。つまり委任です。『あなたは彼らにおきてとおしえとを与えて、彼らの歩むべき道と、なすべきわざを彼らに知らせなさい。』(18:20)

十二使徒が、自分たちが祈りとみことばの奉仕に専念できるように、やもめたちへの毎日の配給を評判の良い7人に委任した(使徒の働き6:1~6)のとまさに同じ解決法でした。私たちがしなければならぬとわかっている神様へのご奉仕を誠意をもってしようとするとき、この解決法は私たちにも当てはまります。私たちの耳元でささやく「みんなにとって評判の良い人に仕事を任せなさい」というイテロの助言を私たちもまた聞く必要があるのかもしれない。

讃美歌 313

祈り お父様。あなたのおっしゃることを聞くことを教えてください。そしてまた、御国の益となるために、私たちに送ってくださいました人たちの言うことを聞くことを教えてください。

私たちの主、イエス・キリストを通してお祈りします。アーメン。

ポール・L・ワトソン

ノースカロライナ州 ダーラム

9月5日(水)

自分の最大の強みに気をつける

聖書朗読 民数記 20:2~13

「あなたがたはわたしを信ぜず、わたしをイスラエルの人々の前に聖なる者としなかった。それゆえ、あなたがたは、この集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない。」
民数記 20:12

聖書の登場人物をよく調べてみると、ときに彼らの一番の強みが、一番の転落を招いていることがわかります。モーセは神様の祝福のもと、イスラエル人のリーダーという「マント」をまとうために、へりくだりと神様への畏怖の念に満ちてスタートします。その後、パロに立ち向かい、数千人ものイスラエル人を率いて、40年間にも及ぶ危険な荒野の旅を続けることとなります。ここから、モーセはリーダーとしての強さを鍛えますが、その後、あつという間に、神様のご栄光をかりて、自分のために主張するようになってしまいます。

同じことがダビデにも言えます。ダビデは神様のみこころに従う人になるよう、勝利に次ぐ勝利という人生に導かれますが、それらの強さは、結局は王という立場を利用して、ウリアの妻バテ・シェバを横暴にも召し取り、ウリアが戦死するように手配するような転落になってしまいます。

また、いつも思いつきで行動するペテロは、キリストの使徒として前に出て、護衛、信仰の告白者、そして岩となります。しかし、こういった衝動的なところが、試練のときにキリストを見捨て、ガリラヤ湖の波に沈みそうになり、パウロが異邦人への使徒として異邦人と一緒に食事をするようになると、彼を見放す(ガラテヤ4:11)ような転落につながりました。

火と原子力に当てはめるなら、適正に扱われたときは大きな益になりますが、悪用されると大きな破壊になります。同じように、私たちは、神様が与えてくださった強さに常に感謝し、神様へのご奉仕にのみ、その強さを使い続けましょう。

讃美歌 313

祈り 親愛なる神様。私たちへの恵みとして与えてくださる強さと、それを誤った用い方をしないように守ってくださいますことをたたえることができますように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ダン・ベイトマン

テネシー州 ファエビュー

9月6日(木)

前を行く!

聖書朗読 ヨシュア記 6:1~11

「契約の箱をかつぎなさい。七人の祭司たちが、七つの雄羊の角笛をもって、主の箱の前を行かなければならない。」
ヨシュア記 6:6

19世紀の終わり、1898年、セオドア・ルーズベルト大佐は、南西部のカウボーイであったオクラホマ・インディアンとニューヨークのアイビーリーグの学生から成る義勇軍、通称「ラフ・ライダーズ(荒馬乗りたち)」を率いて、キューン戦線の「サン・ファン高地」へと向かいました。隊が前進を余儀なくされ後退できなくなると、セオドア・ルーズベルト大佐は、周囲の森から馬に乗って突然あらわれ、軍勢を再編成して突進しました。「前進したくないなら、私たちを前に行かせてくれ」とセオドアは叫びました。セオドアは戦火をくぐり、馬に乗って丘を登り、義勇兵に前進するよう励ましました。全速力で馬を走らせながらライフルを充填し、サン・ファン高地に向かって前進した結果、ついに彼の隊は頂上をとらえることに成功しました。報告された通り、降伏式で、ルーズベルトは隊に向かってこう言いました。「ジョージのおかげさ。よくやったよ」。

ヨシュアのリーダーシップと神様のご指示のもと、ヨシュアはイスラエル人に『主の箱の前を進みなさい』と言い、彼らを前進させました。エリコの町の城壁がくずれ落ち、イスラエル人はカナンの地、乳と蜜の流れる地に進みました。

前進するためにお互いを呼び集め、戦いを続けましょう。信仰をもって前進し、正義の冠を意気揚々と勝ち取りましょう。勝利のとき、私たちの主はきっこうおっしゃってくださいます。『よくやった。良い忠実なしもべだ。』と。

讃美歌 380

祈り 親愛なるお父様。一步踏み出して、キリストの軍として集まり、あなたの御国という理想を前進させ、最終目的地、天国に到達するという勝利を得る勇気を与えてください。

イエス様を通して祈ります。アーメン。

コニー・シンプキン・トーマス
ケンタッキー州 ワシントン

9月7日(金)

神様がいてくださる

聖書朗読 士師記 6:7~16

主はギデオンに仰せられた。「わたしはあなたといっしょにいる。だからあなたはひとり打ち殺すようにミデヤン人を打ち殺そう。」
士師記 6:16

「60年以上お義母さんと共にいてどの様に感じますか?」

私が義父にこう尋ねたことがありました。すると義父はこの様に答えたのです。「いつも隣にただ妻がいてくれることが幸いだったよ。愛する者の存在が全ての幸いをさらに大きく大きくしていくんだ。ただいてくれること、それこそが特別な恵みだったよ」。

神様がいてくれること、そのことに私たちは思いをはせる機会がどのくらいあるのでしょうか。いま隣にいてくれる神様、聖霊は私たちを勇気づけてくださいます。神様がいてくださることは失意や失望の内にある私たちを慰め、また守ってくださいます。私たちの一番大切な生きる意味は神様の存在にこそあるのです。

神様がいてくださること、そのことがギデオンに行動する勇気を与えました。同じ様に私たちも神様の存在によって強められ、勇気づけられるのです。言葉なき、姿なきこの存在こそ私たちに神の言葉を教え、思い起こさせる力となっているのです。

どんなに私たちが弱いと感じても、共にいてくださる聖霊は私たちを力づけ、神の意思を実行できるようにしてくださいます。ギデオンがマナセの中で最も弱く、また一番若かったにもかかわらず神様が用いられたように、私たちがどんなに力ない時でも神様は用いてくださるのです。ギデオンの様に、神様の存在は今日も私たちを強めてくださいます!

讃美歌 39

祈り 愛します神様。私たちにいつも寄り添ってくださること感謝いたします。私たちがもっともっとあなたの存在を感じ、勇気づけられるよう導いてください。私たちが世の光、地の塩となれるように導いてください。アーメン。

クリス・ノールドリ・クラーク
ブリティッシュ・コロンビア州 コキットラム

9月8日(土)

今、わが子を捧げます。主よ！

聖書朗読 Iサムエル記 1：21～28

この子のために、私は祈ったのです。主は私がお願いしたとおりに、私の願いをかなえてくださいました。それで私もまた、この子を主にお渡しいたします。この子は一生涯、主に渡されたものです。
Iサムエル記 1：27～28

ハンナが自らの子を神にささげるこの箇所を読むたびに、私は感謝を覚えずにはいられません。

まず感謝を覚えるのは私も参加しているキリスト者の小さな集会の時にしっかりと子どもの面倒を見ている母親たちとそうしてくださる主へのものです。彼女たちのおかげで3歳か4歳の子どもたちが教会の玄関口で好き勝手することがないのです。いや、勘違いしてほしくないのですが私は子どもが大好きです。しかし私はまだまだキリスト者として成熟していません。まずは私自身が成長することが必要なのです。しかる後に、子どもたちの成長を手助けすることが出来るでしょう。まだいっぱいいっぱいなのです。私は司祭として突然神から与えられた仕事に子育ても含まれていたエリとは違うのです。

真面目な話をすると、このサムエルの若き日の話は私が宣教していた数十年のうちに知り合った信仰深い家族たちのことを思い起こさせます。彼らは自らの子どもを神にささげ、また子どもたちが神の国の礎となることを望んでいました。

私は全国津々浦々で様々な集会に参加し、そこで出会ったいろんな人たちが、自らの子どもを神にささげるように考えてくださるたびに大変恵まれた気分になります。ハンナのように、彼らもまた子どもがどこからきているか知っているのです。ですから、ハンナと同じようにその子どもを与えてくださった偉大な方の下へ子どもを返すのでしょう。あなたは、子どもが神様か与えられると知っていますか？

讃美歌 434

祈り 天にいますお父様。あなたが私たちに子どもをお与えになってくださること感謝いたします。どうか私たちもまた、ハンナの様にあなたのもとに子どもを捧げることができますように。アーメン。

ジーン・シェルブーン
テキサス州 アマリロ

9月9日(日)

沈黙

聖書朗読 I列王記 19：11～12

神の前では、軽々しく、心あせてことばを出すな。神は天におられ、あなたは地にいるからだ。だから、ことばを少なくせよ。
伝道者の書 5：2

沈黙は力強い行いです。しかし、沈黙が耐え難いときもあるでしょう。だからこそ私たちは夫婦げんかの時に互いに「だんまりを決め込む」ことをするのです。また教師はうるさい生徒をじっと見つめるのでしょうか。また別の時、沈黙は信頼を意味するものとなります。二人の親友の間では沈黙は信用と理解の表現となります。言葉も出ないような失意や悲劇のときは、信頼できる人の存在は何よりも励みになります。

沈黙はまた信仰の表現でもあります。詩編19：1～4には以下のように書いてあります。

天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。
昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。
話もなく、ことばもなく、その声も聞かれない。
しかし、その呼び声は全地に響き渡り、
そのことばは、地の果てにまで届いた。

主の臨在の中で、沈黙は敬意であり、信頼であり、愛であるのです。

キリスト者はすべての機械から離れ、静まり、自身の中にあるどんな小さい言葉にでも耳を澄ませられる時を習慣的に持てるようにしましょう。神様もこうおっしゃっています。

やめよ。わたしこそ神であることを知れ。 詩編 46：10

讃美歌 312

祈り 神様。あなたに心を向けその声を聴くことができますように。またそうしてくださることを感謝します。アーメン。

デイブ・ブランド
カリフォルニア州 サウザンド オークス